



208
15
700

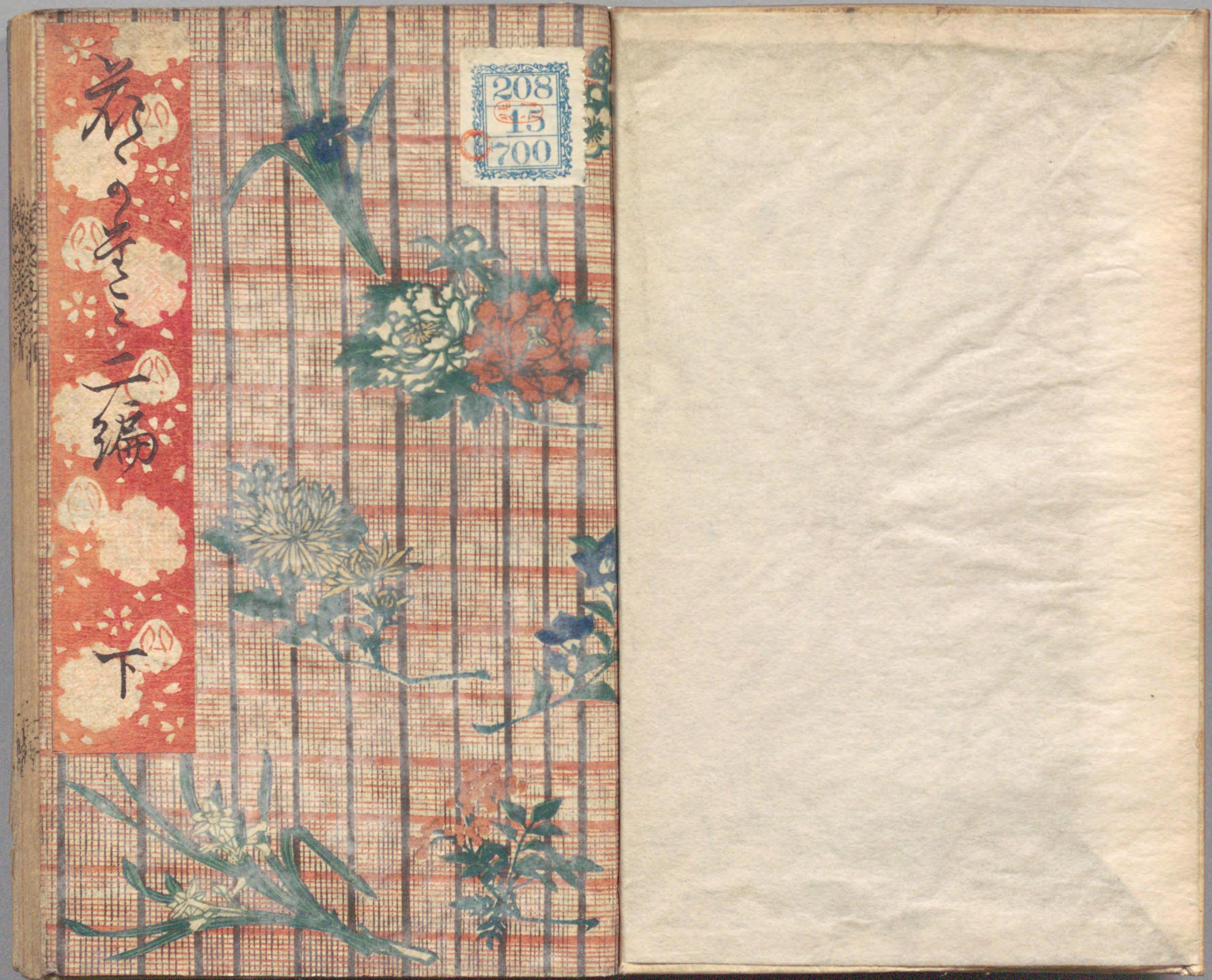
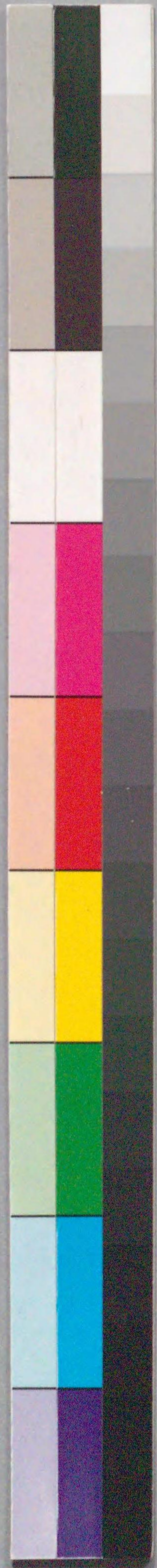
花のほみ

六



国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用



国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用

遊あそび觀み 四よ時じ

花はな籠かご第だい二に編へん卷くわん之の下した

東都

松亭金水編次

第だい十じゅうありぬぬ録ろくめめおおままのの巻まき房ぼう

神かみ代しろのの下した露つゆみみああるるああのの西にしのの

ままままるる海うみののああははけけるるぬぬれれととああららでで神かみふふちちるるおおろろくくをを

ああげげののああひひままららてて松まつ次つぎ房ぼうふふららちち對たいひひ「こゝろ松まつええ」こゝろ「こゝろ松まつええ」こゝろ

ははるるああげげままららてて文ぶんをを續つづぐぐでで下したののままららてて松まつ「こゝろ續つづぐぐ」こゝろ

ああののままららてて文ぶんをを續つづぐぐでで下したののままららてて松まつ「こゝろ續つづぐぐ」こゝろ

花籠 5編 208-700

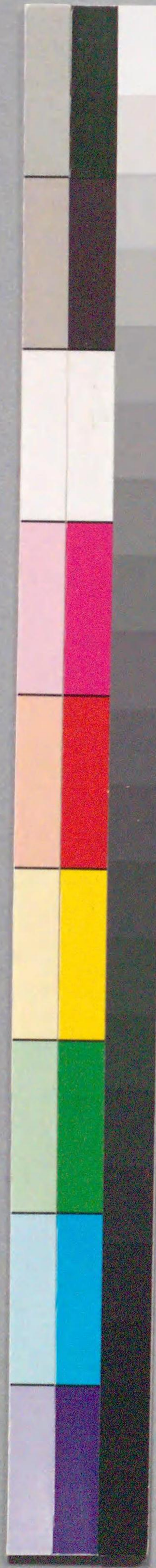
きく嬢さんハ彼らハ女望の人あり。滅多なるをてと親るの。
申遠ひふだもさうと思ひて思ひて。まじあつて返りゆせぬお
居るのサ。一丈でもお富はんが帰して来てヤをせむる。さうせ
なつていふ事ある。嫁ひきかきかきかきかきかきかきかきかき
史ふきても病人を世間かともききかきかきかきかきかきかき
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
あつていふ事ある。史を強合ふ。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。
あつていふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。

モウ今貝沙法がある。羽衣何れかてあると毎日々史なる
かきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
ききかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかきかき
まもあつていふ事ある。私もある。何れかて思ひて思ひて思ひて
さういふ事ある。続つていふ事ある。まじあつていふ事ある。まじあつて
いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。
いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。
いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。いふ事ある。

花筐 5編 208-700







七 ねづるしをばねのやうめお情こやまき 一女の方うらもせおづつ
 ちをせむるとのふぐちまませのつ 大遠く。電おづるふるあ女
 うしや 一地の知りません。秘めたりあるまのふいません 一まづ
 今の分おアそのれう 一本二のりまの 一ごうぞそのとをせ
 きんぬ。一風のふらうねらう 一子流相がえん。子のおもつて
 蠟が空へ物後とけい板ふ流せとらう子
 作者のそく。まててうのお居へ初編の首巻とらう。今二編の
 巻末ふらるまで。さまあうしにまをの編りて教

孝貞の切めらうも。有官らをもりて戦とらう。冊子とえ
 けりあふらう。史伊勢源氏の古た書。只巻終を
 ちあふらうねど。文中あつてはなとてあつて。よく
 味らう。こまの義もあり信もあり。孝のあり。貞のあり。
 今らの物語をよぶ比まてらう。あつねど。御者の御をよぶ
 ある。まごの教とらる中の中。御者自のまをを食り。
 終末の巻ふらう。ては。嫉妬のあふれを過まら。後
 りて災を醸し。行をわう。て男の味まれ。権れめら

新編 源氏物語

七

208
15
700

所弘賣

色自然と接の花の如くより二通り用ひるは此の極小の肌目
 も洞二重仿の如くも隣りともこのまゝび。七をよ。腫物の跡
 ともこの如くも跡あり。此の如く用ひるは清合。朝起。髪を洗
 はる。梳香をよ。此の如く用ひるは。白粉を付る。極小の肌色も。自然
 素面の向く。う。極小の肌色。此の如く用ひるは。及。羊を。此の如く用
 のひても。自然。美く。此の如く用ひるは。此の如く用ひるは。其の
 美人とありある。

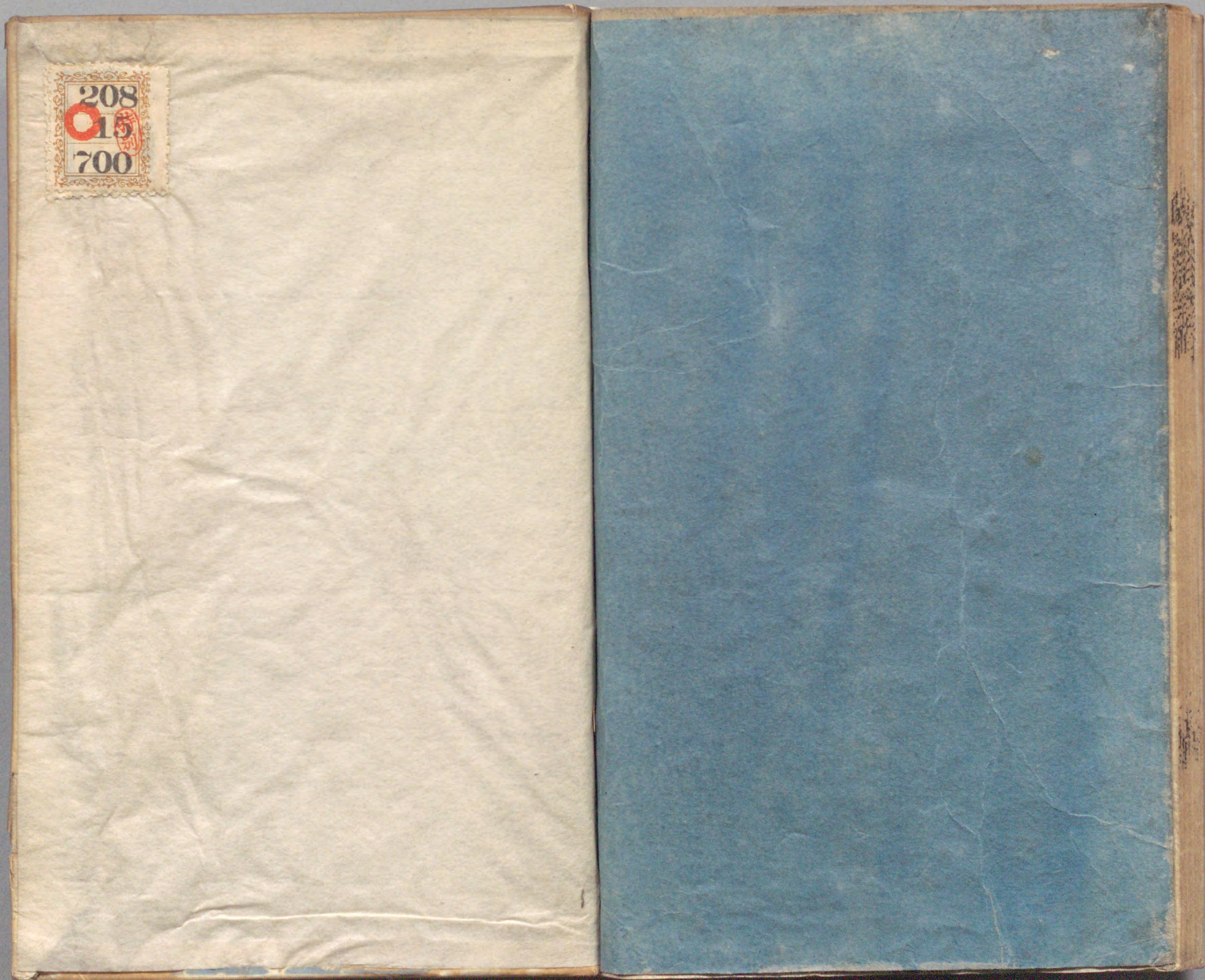
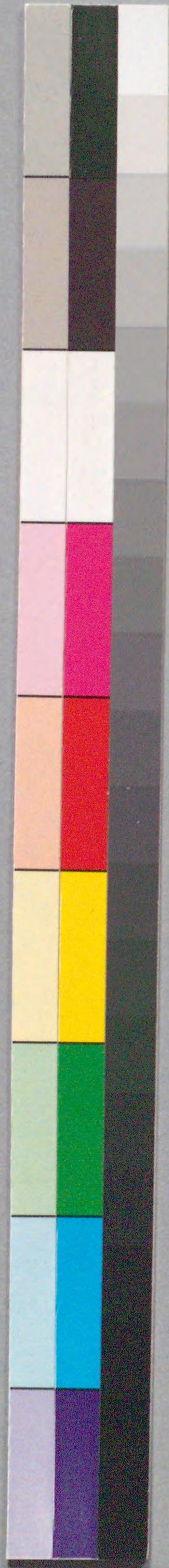
為永春水精刺

妙藥 初みどる

書物并繪入 問屋 江戸京橋左衛門町東側中程 文永堂 大嶋屋傳右衛門

和漢軍書繪入 讀本 類
 吉本 品 汲山 取持仕 付 庶
 格 別 下 座 にお 働 差 上 中 間 不 限
 多少 沙 求 下 下 編 希 上

京橋南中通り 弥左衛門町
 文永堂 大嶋屋傳右衛門

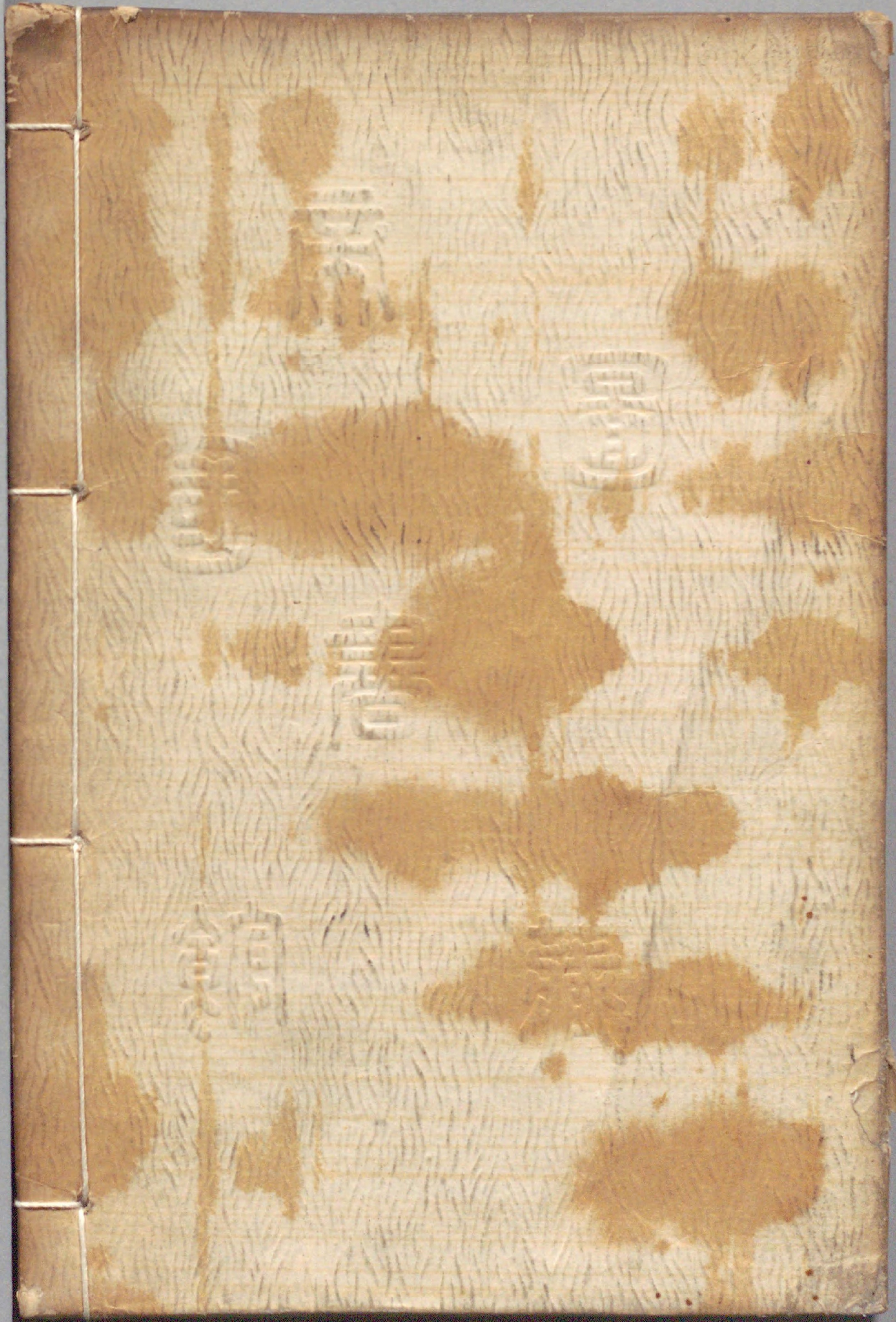
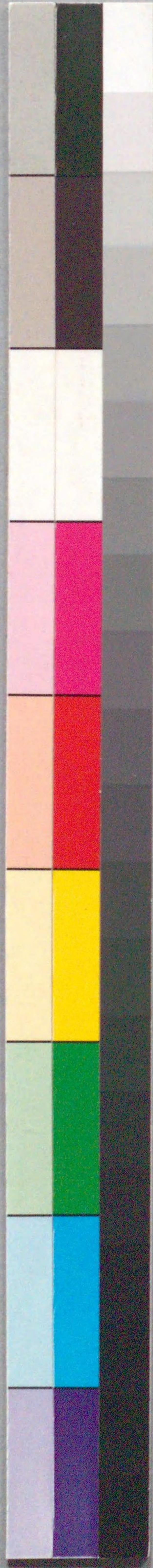


208
15
700

国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用





国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用